

2026年度
埼玉県立大学

専門職連携を学ぶ講座

募集要項



2026年 3月 16日 発行

各講座において、修了要件を満たした方に修了書を発行します。

また、「専門職連携を学ぶ講座」の複数の講座を受講し、合計60時間以上の講座を修了した方には、文部科学省が認定する「履修証明プログラム」としての履修証明書を発行します。

※詳細は、募集要項4ページをご確認ください。

1. 2026年度「専門職連携を学ぶ講座」開催スケジュールについて

個別講座名	チーム力を高める実践講座:現場で成果を出す コミュニケーション&リフレクション	募集人数	30名	開催方法	対面
申込期間	開講日時		受講料		
当初:~5月11日(月) 追加:~5月18日(月)	5月24日(日) 9:30~16:30		3,000円		
個別講座名	多職種を動かし、現場を変える「チームの舵取り」養 成講座~現場を動かし“納得”に変える実践ファシ リテーション~〈全2日間〉	募集人数	20名	開催方法	対面
申込期間	開講日時		受講料		
当初:~5月18日(月) 追加:~5月25日(月)	5月30日(土) 9:30~16:30 6月20日(土) 9:30~16:30 7月11日(土) 9:30~16:30	選択 必須	6,000円 (※3日間受講する場合は 9,000円となります)		
個別講座名	専門職連携の基盤『ヒューマンケア』を探究する ~分野も立場もこえて~	募集人数	20名	開催方法	対面
申込期間	開講日時		受講料		
当初:~5月18日(月) 追加:~5月25日(月)	6月6日(土) 9:30~15:00		3,000円		
個別講座名	IPWを促進するF-SOAIIPリーダー養成研修~ ミクロ・メソ・マクロレベルでの好循環とエコシ ステム~	募集人数	20名	開催方法	オンライン
申込期間	開講日時		受講料		
当初:~6月29日(月) 追加:~7月6日(月)	7月17日(金) 11:00~17:00 9月4日(金) 13:00~17:30 10月30日(金) 13:00~17:30	9,000円			
個別講座名	専門職連携で学ぶ事例検討~複雑化・複合化した支援 ニーズのある事例から考える本人中心の意思決定~	募集人数	20名	開催方法	対面
申込期間	開講日時		受講料		
当初:~8月28日(金) 追加:~9月4日(金)	9月13日(日) 9:30~16:30		3,000円		
個別講座名	専門職連携チームのアントレプレナーシップ 概論	募集人数	30名	開催方法	対面
申込期間	開講日時		受講料		
当初:~11月24日(火) 追加:~11月30日(月)	12月6日(日) 9:00~16:00		3,000円		

※各講座の最少催行人数は5名です。当初申込期間に最少催行人数に達しない場合、申し込み後多数のキャンセルが生じて最少催行人数を大きく下回った場合は不開催とさせていただきます。当初申込期間に各講座5名以上の申込があり、募集人数に満たない場合は、追加申込期間を設けることがあります。

※天候や社会情勢等を踏まえて、開催方法を変更する場合があります。

~専門職連携について~ 埼玉県立大学は、全国に先駆けてIPE(Interprofessional Education)に取り組んできました。本学は、IPW(Interprofessional Work)を日本で初めて翻訳し、「専門職連携」としました。

2. 受講対象者：

各講座が開講する日程をすべて受講できる方で、以下に該当する方

- 専門職連携について学びたい方
- 専門職としてのキャリアアップや新たな知見の習得、IPW の実践を目指す社会人の方
 - ・ 受講者の職種や勤務年数など問いません。
 - ・ 7ページ以降の各講座のシラバスをご確認のうえ、お申込みください。

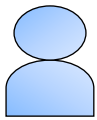
※履修証明書の取得を目指す方は、交付要件がありますので、4ページをご確認ください。

3. 受講料について

「専門職連携を学ぶ講座」は、多職種連携に必要な知識・技能の修得の他、受講者同士のグループワークなどを通し、多職種連携の実践を行う講座です。このため、多くの職種の方にバランスよくご参加いただきたく、『勧誘奨励制度』を設けています。

具体的には、申し込みいただいた方の主たる職種と異なる職種の方をお誘いのうえ申し込まれた場合に、誘い合わせた（誘った、誘われた）両受講者の受講料を1日につき1,000円減額する制度です。勤務先が同じである必要はありませんので、ご友人やお知り合いでの活用も歓迎します。本制度の活用により、多くの異なる職種の方が講座に参加され、より実践的な多職種連携の学修が進むことを期待しています。

例① 1日の講座を異なる職種2名で申し込んだ場合

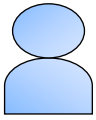


Aさん：
3,000円 ⇒ 2,000円

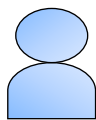


Bさん：
3,000円 ⇒ 2,000円

例② 3日の講座を3名（同一職種2名、異なる職種1名）で申し込んだ場合



Aさん：
9,000円 ⇒ 6,000円



Bさん：
9,000円 ⇒ 6,000円



Cさん：
9,000円 ⇒ 6,000円

※異なる職種を2名以上誘った場合も、減額は1日につき1,000円までです。

※申込時点で、誘った方、誘われた方のお名前を伺います。申し込みいただいた情報について、事務局から確認をさせていただく場合があります。

※申込時点で申し出がなかった場合、勧誘奨励制度の対象外となりますのでご了承ください。

4. 開催方法及び開催場所：

◎対面開催の講座：

会場：埼玉県立大学

所在地：〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮 820 番地

アクセス：東武スカイツリーライン「せんげん台駅」西口からバス5分（徒歩20分）

◎オンライン開催の講座：

Zoom と Google スライド を使用して実施します。基本的な操作方法などは、各自でご確認ください。

受講当日は一人1台使用できるパソコンをご用意ください（zoom と Google スライドを同時に使用するため、原則スマートフォン、タブレットでの受講不可）。

※ 受講にかかる通信費は受講者負担となります。

※ 受講方法や会場の詳細は、受講者に別途通知します。

5. 申込方法

各講座の申込期間に、埼玉県立大学のホームページにあるWEBフォームより、お申込みください。

都合により申込をキャンセルする場合には、速やかに本学へご連絡ください。



埼玉県立大学 専門職連携を学ぶ講座

検索

専門職連携を学ぶ講座申込
〈埼玉県立大学ホームページ〉

講座案内メールリングリストへの登録

専門職連携を学ぶ講座の各講座を含めて、本学で開催される専門職向けの各種講座情報等のお知らせや申込期間をタイムリーにダイレクトメールでお届けするメールリングリストを作成しています。希望される方は、是非ご登録ください。



メールリングリスト
登録フォーム

お申し込み時に登録された個人情報は、埼玉県立大学の「個人情報の取り扱い（プライバシーポリシー）」に基づき、本学からのお知らせにのみ使用します。

6. 受講決定

当初申込期間締切後、募集人員を超える申し込みがあった場合は抽選を行い、申し込みいただいた全員に受講の可否についてご連絡いたします。追加申込期間は、先着順で申込を受け付けます。申込時に記載いただいたメールアドレス宛に通知をしますので「@spu.ac.jp」のメールを受信できるように設定してください。

受講日3日前までに、受講に関する通知が届かない場合には、お手数ですが本学までお問い合わせください。

専門職連携を学ぶ講座は、多職種の方にご参加いただくことを前提としておりますので、募集人数内であっても職種に偏りがある場合には、職種による受講人数の調整をさせていただきます。

7. 受講料振込

受講決定通知に記載する振込先に、受講する講座の受講料をお振込みください。振込期限も受講決定通知に記載されています。

所定の期間内に振込が確認できない場合には、受講をお断りする場合があります。また、受講料振込後、受講者の都合による返金には応じることができませんので、あらかじめご了承ください。

8. 事前準備、持ち物など

対面で開催する講座は、昼食をご持参ください。学生食堂は営業していません。

事前準備等の詳細は7ページ以降のシラバスをご確認ください。その他、事前課題・持ち物等がある場合には、メールでお知らせします。

9. 修了証の発行

各講座の修了要件を満たした方に対して、修了証を発行します。

なお、専門職連携を学ぶ講座の各講座は、「埼玉県主任介護支援専門員更新研修の法定外研修」および「日本作業療法士協会 生涯学修制度」の単位やポイントとなります(※)。単位やポイントの付与に必要な修了証は、通常の修了証と様式が異なるため、希望の有無、発行に必要な情報を別途伺います。

※各団体の制度変更等により、対象外となる場合があります。申込み前に、改めて最新情報をご確認ください。

10. 履修証明プログラム

埼玉県立大学が実施する「専門職連携を学ぶ講座」は、履修証明プログラム(*1)として文部科学省に認定されています。

下記の交付要件を満たす方に履修証明書を発行いたしますので、希望される方は5ページの申請方法をご確認のうえ、必要書類をご提出ください。

履修証明書 交付要件

- ① 「専門職連携を学ぶ講座」の異なる講座を複数受講し、合計時間数 60 時間以上を修了した方
(時間数は、【実施時間 45 分、自己学習時間 15 分】を 1 時間として計算しています。)
- ② 埼玉県立大学学則第54条(*2)に定める入学資格を満たす方

*1 履修証明プログラムとは、学校教育法第 105 条及び学校教育法施行規則第 164 条の規定に基づき、大学のより積極的な社会貢献を促進するため、主に社会人を対象とした一定のまとまりのある学習プログラムを開設し、その修了者に対して学校教育法に基づく履修証明書を交付するものです。なお、学位が授与されるものではありません。

*2 第54条 本学学部に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- 三 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 六 文部科学大臣の指定した者
- 七 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)で18歳以上の者
- 八 本学の定めるところにより、個別の入学資格審査をもって、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳以上の者

注. 埼玉県立大学学則は、2026年3月現在のもので、上記に該当しない場合には、「埼玉県立大学 専門職連携を学ぶ講座 事務局」までご相談ください。

履修証明書 申請方法

6ページの【履修証明プログラム「専門職連携を学ぶ講座」履修証明書交付申請書】に必要な事項を記載し、提出書類2点を下記提出先まで郵送にてご提出ください。提出後1か月を目途に、履修証明書を交付いたします。

提出書類：①履修証明プログラム「専門職連携を学ぶ講座」履修証明書交付申請書
②下記（１）または（２）の履修証明書交付要件を確認できる書類

（１）履修証明書交付要件「1. 高等学校等の卒業」または「2. 高等学校卒業程度認定試験・大学入学資格検定 合格」の場合

・高等学校の卒業証明書、高等学校卒業程度認定試験合格証 など

（２）履修証明書交付要件「3. その他相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者」

・3年以上の職務経験を証明する書類（在職証明書など）

※職業、職種、雇用形態は問いません

提出先：〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮 820 番地
埼玉県立大学 専門職連携教育研修センター 事務局

封筒に「履修証明書交付申請書」と朱書きしてください。

提出期間：履修時間が合計 60 時間以上に達した後、随時
※ただし、2026年12月末日までにご提出ください。

履修証明プログラム「専門職連携を学ぶ講座」について

プログラムの目的及び内容

1)目的

患者・利用者中心のヒューマンケアマインドを基盤として、患者・利用者とともに質の高いケアを創り上げるための専門職連携実践(IPW)及び専門職連携教育(IPE)を円滑に推進できる保健・医療・福祉分野の人材育成に寄与することを目的とする。

2)内容(編成方針等)

IPW/IPEに関連する理論を背景として、チーム力を高めるための実践講座やチームの舵取りに主眼を置いた実践ファシリテーション、IPWを促進するF-SOAIPの知識と技術、利用者中心の意思決定を土台としたIPWの事例検討を取り入れるとともに、新たに、専門職連携の基盤となるヒューマン・ケアの探究や専門職連携チームのアントレプレナーシップ概論を導入し、IPW/IPEの基盤と実践的能力を学修できる内容を体系的に編成する。

3)修了後に身に付く能力

患者・利用者中心のヒューマンケアマインドを基盤として、患者・利用者とともに質の高いケアを生み出すためのIPW/IPEを円滑に推進できる基礎知識・技術及び実践的能力を身につける。

4)履修証明を行う社会的意義

日本では、急速な少子化や高齢化、人口減少や家族形態の変化、地域の支え合いの衰退などが進行し、経済・社会の持続性を脅かすとともに、生活者の「生活のしづらさ」を増幅させている。こうした状況の中、多様な背景を持つ保健・医療・福祉分野の専門職が、互いの専門性の違いを認識し、対等かつ協働できる関係性のもとで目標を共有して活動できるIPW/IPE能力の醸成は、質の高いケアの提供に不可欠である。履修証明は、この社会的要請に応えるべく人材を育成し、地域社会の持続可能なケア体制の構築に寄与する意義を有する。

※本プログラムを修了することによる単位の授与はありません。

履修証明プログラム「専門職連携を学ぶ講座」履修証明書交付申請書

フリガナ:	
氏名:	
生年月日: 西暦	年 月 日生 (年齢: 歳※申請日現在)
住所	〒 _____ 都・道 府・県
電話番号: ()	携帯電話: ()
e-mail:	

専門職連携を学ぶ講座 受講履歴		
2026年度 個別講座名	時間数	受講講座に チェック
チーム力を高める実践講座:現場で成果を出すコミュニケーション&リフレクション	8	<input type="checkbox"/>
多職種を動かし、現場を変える「チームの舵取り」養成講座～現場を動かし“納得”に変える実践ファシリテーション～(全2日間)	16	<input type="checkbox"/>
専門職連携の基盤『ヒューマンケア』を探究する～分野も立場もこえて～	6	<input type="checkbox"/>
IPWを促進するF-SOAIIPリーダー養成研修～マイクロ・メゾ・マクロレベルでの好循環とエコシステム～	20	<input type="checkbox"/>
専門職連携で学ぶ事例検討 ～複雑化・複合化した支援ニーズのある事例から考える本人中心の意思決定～	8	<input type="checkbox"/>
専門職連携チームのアントレプレナーシップ概論	8	<input type="checkbox"/>
(合計 60 時間以上)	受講合計時間数 合計時間	<input type="checkbox"/>

履修証明書 交付要件 ※該当する要件に○、必要事項記載
1. 高等学校等の卒業 () 高等学校・中等教育学校 年 月卒業
2. 高等学校卒業程度認定試験・大学入学資格検定 合格
3. その他相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

職歴 ※履修証明書交付要件3に該当する方のみ、直近のものから3年以上の職歴を記載	
期間	勤務先 名称
～	
～	

専門職連携を学ぶ講座 シラバス

個別講座名	チーム力を高める実践講座：現場で成果を出すコミュニケーション&リフレクション（対面開催）	
担当教員	○井上和久、押野修司、吉村基宜、原明子、阿部真純	
開講日時	5月24日（日） 9：30～16：30	
総時間数	研修時間数：6時間 履修証明プログラムにおける時間数：8時間＊ ＊1時間＝45分間（実質の受講時間）＋15分間（自己学習）	
講義概要	<p>保健・医療・福祉・介護の職場では、目標達成のために個々人（専門職）のもつ能力を発揮し、より高い臨床実践、ヒューマンケアを目指して、チームで成果をあげることが求められています。本研修は、以下を目的とします。</p> <p>多職種が協働する現場で、チームとして機能するために必要なコミュニケーション力・信頼構築・リフレクションの基本スキルを学び、職場のチーム活性化に貢献できる人材を育成します。</p> <p>＊研修受講後に、職場でのコミュニケーション改善や信頼構築に向けた具体的な行動を実践できるようになることを目指します。</p> <p>対象者：保健・医療・福祉・介護の現場スタッフ</p> <p>評価方法：</p> <p>①対面研修の受講 ②研修後アンケート（理解度・満足度）</p> <p>〔キーワード〕 チームビルディング、コミュニケーション、リフレクション、ヒューマンケア、チームの活性化</p>	
到達目標	<p>1. チームビルディングとリフレクションの基本概念を自分の言葉で説明できる。〔知識〕</p> <p>2. 職場事例を用いて、コミュニケーション改善点を具体的な行動計画に落とし込める。〔技術〕</p> <p>3. 専門職種での相互尊重を意識し、信頼を築く言動を実践できる。〔態度〕</p>	
講義内容及び方法	講義内容	講義方法
	<p>午前（9:30～12:00） 導入（45分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職連携の意義と現場課題の共有 ・ヒューマンケアとは何か、その視点から専門職連携を考える ・「なぜチームビルディングが必要か」事例提示 <p>第1部（105分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームビルディングの基本（役割・信頼・目標共有） ・ワーク①： 自分の職場で「信頼を感じる瞬間」を個々で書き出し、チームで共有 <p>午後（13:00～16:30）</p> <p>第2部（90分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキル（傾聴・フィードバック） ・ペア演習：「聴く力」を体験（3分話す→要約→感想）等 <p>第3部（90分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフレクション演習（事例を用いた振り返り） ・ワーク②： 「うまくいった場面／改善できる場面」個々で書き出し、チームで共有 <p>まとめ（30分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明日から実践する「3つの行動宣言」（行動宣言シートへの記入含む） ・チェックリスト配布（信頼・コミュニケーション・振り返り） <p><当日配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義資料、行動宣言シート（研修後に職場で共有） ・アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 理論理解 ・演習 ケーススタディ グループワーク ・リフレクションと共有 （個人振り返り＋グループ共有）

個別講座名	多職種を動かし、現場を変える「チームの舵取り」養成講座 ～現場を動かし“納得”に変える実践ファシリテーション～〈全2日間〉（対面開催）		
担当教員	○小川孔美、國澤尚子 柴田貴美子（元埼玉県立大学作業療法学科 教員）		
開講日時	【必須受講】 7月11日（土）実践演習 9:30～16:30 + 【選択受講】 5月30日（土）または6月20日（土） 9:30～16:30 ※5月、6月の開講日は、いずれか1日を選択し、合計2日間の受講となります。 ※3日間の受講を希望する場合、受講料は3日間分（9,000円）となります。また、内容も一部重複する場合があることをご了承ください。		
総時間数	研修時間数：12時間（6時間×2日間） 履修証明プログラムにおける時間数：16時間* *1時間＝45分間（実質の受講時間）＋15分間（自己学習）		
講義概要	複雑化する多職種連携の現場では、単に「意見を聞く」だけでは前に進めません。 本講座では、専門職が持つ多様な価値観を“対立”ではなく“知恵”に変えるための 実践的ファシリテーション技術＝チームの舵取り力 を、講義・演習・シミュレーションを通して体系的に学びます。 ・会議が報告会で終わってしまう／多職種の「正義の衝突」の扱いに悩む ・沈黙・独演・脱線にどう介入すればいいかわからない こうした“現場の困りごと”を突破するための、 問いの立て方・介入の仕方・場のづくり方 を徹底的に磨きます。		
到達目標	（1）多職種連携における「舵取り（ファシリテーション）」の意義を理解する （2）専門職の価値観の違いを“対立”ではなく“知恵”に変える技術を習得する （3）沈黙・独演・脱線など、現場で起こりがちな“議論のノイズ”への介入方法を身につける （4）Schwarzの相互学習モデルを通じて、チームの思考と行動を変革するスキルを学ぶ （5）シミュレーションを通して、自分のファシリテーションスタイルを確立する		
講義内容及び方法	開講日	講義内容	講義方法
	【選択受講】 5月30日（土） ※対面 （埼玉県立大学）	三流は「意見」をまとめ、一流は「知恵」を引き出す ～報告会を“知恵が生まれる場”に変える基礎編～ ・なぜ今、ファシリテーションとしての「舵取り力」が必要なのか ・多職種チームの“見えない壁”を理解する ・ファシリテータ総論：役割・姿勢・倫理 ・「情報の質」を上げる場づくり 合意形成のステップと“問い”のデザイン	講義・ミニ演習
	【選択受講】 6月20日（土） ※対面 （埼玉県立大学）	現場の「困った」を突破する！多職種を動かすコアスキル ～あなたの一言が、議論の空気を変える～ ・ファシリテータ各論 ・論点と意見の仕分け／“議論のノイズ”への対応 ・対立を“解きほぐす”中立的介入 専門職のプライドを傷つけない議論の軌道修正	講義＋ロールプレイ ＋フィードバック
	【必須受講】 7月11日（土） ※対面 （埼玉県立大学）	実践シミュレーション：知恵を編み合わせ、チームを動かす ～「失敗できる場」で磨く、あなたの舵取りスタイル～ - 実践シミュレーション（ケースを用いた会議進行） - 自分のファシリテーションスタイルの言語化	シミュレーション＋ 講師フィードバック ＋リフレクション

個別講座名	専門職連携の基盤『ヒューマンケア』を探究する～分野も立場もこえて～（対面開催）	
担当教員	○朝日雅也、他	
開講日時	6月6日（土） 9：30～15：00	
総時間数	研修時間数：4.5時間 履修証明プログラムにおける時間数：6時間* *1時間=45分間（実質の受講時間）+15分間（自己学習）	
講義概要	<p>保健医療福祉領域での専門職連携を進めていくためには、各専門分野における実践理念を踏まえつつ、共有化できる理念等（分野を包括する理念、行動規範、指針等）を不断に探究することが不可欠である。本講座では、埼玉県立大学の専門職連携教育（IPE）において、各分野に共通する理念として位置づけられてきた「ヒューマンケア」の概念を用いて、さらに実践現場で各分野の連携・協働の原動力となるよう、その探究を図っていく。その際には、各分野における実践理念を、例えば倫理綱領等を手がかりに相互理解した上で、より抽象度の高い、しかしながら分野をこえた包括性のある「ヒューマンケア」を描くことにしたい。同時に、保健医療福祉における重要な専門分野として、患者や福祉サービス利用者などの「体験の専門家」との連携・協働の視点についても押さえることとしたい。</p> <p>専門職連携の基盤となる「患者や利用者とともに」を裏づける理念の探求の研究でもある。</p> <p>〔キーワード〕 ヒューマンケア、ケア、キュア、倫理綱領、体験の専門家</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉領域で共有化できる「ヒューマンケア」概念を学び、受講者それぞれの専門分野及び専門職連携が展開する職場での活用について考えることができる。 ・様々な専門分野における実践理念について相互に学び合うとともに、共通性や横断的な支援（介入）目標の構築について考えることができる。 ・体験の専門家としての患者や福祉サービス利用者を専門職連携のチームメンバーとして位置づける（想起する）ことができ、その「専門性」の理解を高める。 	
講義内容及び方法	<p>講義内容</p> <p>1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンケアについて考える ・ヒューマンケアが求められる背景 ・それぞれの専門分野における支援理念（倫理綱領の理解を手がかりに） ・分野をこえた理念の共有化（共通性や横断的な実践理念、指針の検証） ・体験の専門家としての患者・福祉サービス利用者 ・探究のプロセスとしての「ヒューマンケア」 </p> <p>2. 演習 上記の講義内容に沿ってグループで協議する。 具体的には以下のテーマを予定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・自身の「ケア」観の吟味と擦り合わせ ・各分野の倫理綱領 ・体験の専門家における「専門性」の検証 ・私たちが考える「ヒューマンケア」の検討（言語化）と発表 </p> <p>3. 全体リフレクション <ul style="list-style-type: none"> ・各グループにおける協議内容を発表し、全体で共有し振りかえる。 ・個々人で学びを振り返るとともに全体で共有する。 </p> <p>◆受講アンケート</p>	<p>講義方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・演習 ・リフレクション
	<p><事前課題> 特になし（可能であれば申し込み時に受講理由・受講により期待すること等を把握したい）</p>	

個別講座名	IPW を促進する F-SOAIP リーダー養成研修 ～ミクロ・メゾ・マクロレベルでの好循環とエコシステム～ (オンライン開催)		
担当教員	○嵐末 恵子、小嶋 章吾 (国際医療福祉大学大学院 特任教授) 他ゲスト数名 (3 回目)		
開講日時	1 回目：7月17日 (金) 11:00～17:00 *事前学習：1 時間分をオンデマンド 2 回目：9月4日 (金) 13:00～17:30 3 回目：10月30日 (金) 13:00～17:30		
総時間数	研修時間数：15 時間 (事前のオンデマンド学習 1 時間 / 5 時間 / 4.5 時間 / 4.5 時間) 履修証明プログラムにおける時間数：20 時間* *1 時間 = 45 分間 (実質の受講時間) + 15 分間 (自己学習)		
講義概要	<p>※3 回とも講義および演習ワーク (個人・グループ) を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> • F-SOAIP の概要と特徴 (多領域の実践・研修・研究・システム搭載例等) を学ぶ • F-SOAIP による IPW を理解する～ミクロレベルの導入とメゾ・マクロ展開～ • 先進例から導入プロセスや効果を学び、IPW の実践変容による好循環や DX を展望する <p>※ゲスト：受講者の目標や職種をふまえ、多機関多職種へ依頼 ※3 回分の出席と課題提出により、本講座修了とする</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> • F-SOAIP の講義や書換えワーク、伝達研修などを通じ、IPW (医療・福祉・教育等の多領域、多機関多職種) の実践変容による好循環や諸課題解決に向けた DX を展望できる。 • F-SOAIP の普及・導入を推進できるリーダーに求められる役割を理解する。 		
講義内容及び方法	開講日	講義内容	講義方法
	1 回目 7月17日 (金) ※オンライン	『F-SOAIP の概要と特徴を学ぶ』 • F-SOAIP の概要 (定義・DX 等) ⇒病院・自治体・大規模法人等における多領域のシステム搭載・生成 AI 活用例 • PDCA サイクルにおける実施段階の経過記録と IPW・諸課題との関連 • IPW を可視化する F-SOAIP の理解 • F-SOAIP への転換：IPW に役立つ場面 • 新たな挑戦を意味づけるリフレクション	※F-SOAIP ワークシート【初回版】提出 →当日提出できなかったシート・リフレクション等は、7/31 までに提出
	2 回目 9月4日 (金) ※オンライン	『F-SOAIP による IPW を理解する～ミクロレベルの導入とメゾ・マクロ展開～』 • 1 回目のリフレクションや課題等を共有 • 講義：F-SOAIP の横断的な応用 カンファレンスや事例検討、LIFE のフィードバック活用、OJT、セルフスーパービジョン、BCP、報告書の分析等 • 講義：特徴的テーマと F-SOAIP アプローチ 苦情対応、ヒヤリハット、意思決定支援、認知症 BPSD 等の予防、看取り、人材育成等、 • IPW や好循環に着目したリフレクション	※8/24 までに次のどちらかを提出 • F-SOAIP ワークシート【導入版】 • 好循環シート1 ※当日提出できなかったシート・リフレクション等は、9/18 までに提出
	3 回目 10月30日 (金) ※オンライン	『先進例から導入プロセスや効果を学び、IPW による好循環や DX、エコシステムを展望する』 • 2 回目のリフレクションや課題等を共有 ◆ゲスト数名による実践報告・交流 • F-SOAIP 好循環モデルの作成・共有 • IPW の好循環に向けたリフレクション	※10/16 までに次のいずれかを提出 • F-SOAIP ワークシート【OJT 版】 • IPW・F-SOAIP 実践シート • 好循環シート2 ※当日提出できなかったシート・リフレクション等は、11/13 までに提出

事前学習・準備等	<p>① 本学の WebClass*を活用（資料等の閲覧やダウンロード）できるよう説明動画を視聴してください。説明動画には、F-SOAIP リーダー養成研修の課題やワークの成果を可視化する内容が含まれます。（事前のオンデマンド学習として換算）。</p> <p>② 受講前に F-SOAIP を紹介している HP (https://seikatsu.care/) より、F-SOAIP のリーダー研修受講者等による専門雑誌での実践報告テーマや動画等を視聴してください（事前のオンデマンド学習として換算）。</p> <p>③ 受講者には、1 回目には使用する F-SOAIP ワークシート【初回版】を配信しますので、所定の欄に、F-SOAIP へ書き換えたい場面を入力しておいてください。</p> <p>④ 講座は、Zoom と Google スライドを使用して実施します。以下の基本的な操作方法を各自で実施できるようご準備ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Zoom：チャットへの入力、名前変更、ブレイクアウトルーム内への移動、画面共有 • Google スライド：表や付箋への入力など <p>⑤ 受講当日は一人1台使用できるパソコンをご用意ください（zoom と Google スライドを同時に使用するため、原則スマートフォン、タブレットでの受講不可）。</p> <p>※本講座は、F-SOAIP リーダー養成研修として位置付けていますので、事前学習・準備等にご協力ください。</p> <p>※事前のオンデマンド学習は、①②2 つの動画を合わせて約 1 時間です。</p> <p>*WebClass とは、本学で導入している e ラーニングシステム（学習支援システム）です。講座の教材・資料等の閲覧やダウンロード、課題（シート・リフレクション等）提出等に利用します。</p>
----------	---

個別 講座名	専門職連携で学ぶ事例検討 ～複雑化・複合化した支援ニーズのある事例から考える本人中心の意思決定～ (対面開催)
担当教員	○善生 まり子、高村 夏輝 野呂 牧人先生（ケアビレッジ・シャローム副施設長） 江口 幸治先生（埼玉大学オープンイノベーションセンターリカレント教育部門長）
開講日時	9月13日（日）対面学習 9：30～16：30
総時間数	研修時間数：6時間 履修証明プログラムにおける時間数：8時間＊ ＊1時間＝45分間（実質の受講時間）＋15分間（自己学習）
目的 ねらい	目的：複雑化・複合化した支援ニーズをもつ利用者の「生活の継続」を支えるために、本人中心の意思決定を土台とした専門職連携（IPW）の実践を、事例を通して統合的に学ぶことを目的とする。 ねらい：1. 事例を通じて、本人の価値観・生活課題・関係者の視点を整理し、複雑な支援ニーズを理解できる。 2. 倫理的葛藤や意思決定を「チームで扱う課題」として捉え、共有・検討するための思考を身につける。 3. 専門職の役割と強みを踏まえ、本人中心の意思決定プロセスを多職種でなすための専門職連携スキルを養う。 4. 学んだ内容を自施設や地域の実践に結び付け、具体的なアクションプランとしてまとめる力を培う。 〔キーワード〕専門職連携、本人中心の意思決定、複雑化・複合化した支援ニーズ、マネジメント、倫理的葛藤
到達目標 評価方法	到達目標：1. 本人中心の意思決定の基本構造と、生活の継続を支えるケアマネジメントの視点を説明できる。 2. 複雑化・複合化した支援ニーズをふまえ、事例情報を構造化して共有できる。 3. 倫理的葛藤や意思の不明瞭さによる意思決定が滞る要因を整理し、チームで方向性を提示できる。 4. ロールプレイを通じて、チーム調整や役割整理などの専門職連携スキルを活用できる。 5. 自施設の課題から具体的なアクションプランを作成し、説明できる。 評価方法：1. 対面研修の受講状況 2. 研修後アンケート（理解度・満足度）の回答
講義内容	1. 導入（9:30～9:50）（善生まり子） ・研修の趣旨、本日の進め方、事例紹介（複雑化・複合化した支援ニーズをもつケースの背景を共有） 2. 講義①（9:50～10:20）本人中心のケアを支える制度と意思決定の枠組み（江口 幸治） ・本人中心の意思決定の基本構造、本人・家族・専門職の価値観の違いの理解、意思決定が滞り易い場面の特徴 3. 演習①（10:20～11:10）事例の構造化：アセスメント視点の共有（江口 幸治、他全員） ・ケースの大枠（全体像）を読み解く、「価値観」「生活を維持する要素」「連携すべきポイント」を整理 ・複雑な支援ニーズを“見える化”し、チームで共有する 4. 講義②（11:20～11:50）本人中心の意思決定を支えるポイント（高村 夏輝） ・本人の意思・価値観を中心にする工夫、情報不足・価値観不一致・意思の揺らぎ対応、倫理的葛藤の整理方法 5. 演習②（11:50～12:40）倫理的葛藤の読み解きと対応策の検討（高村 夏輝、他全員） ・意思決定が滞る要因を整理、葛藤を「対立」ではなく「ギャップ」と捉える、解決の選択肢をチームで広げる 6. 講義③（13:30～14:00）チーム調整とケースマネジメントのポイント（野呂 牧人） ・連携が機能しにくい場面の典型例、情報の見える化、多職種の役割整理 ・本人中心の意思決定プロセスを“チームでつくる”実践ポイント 7. 演習③（14:00～14:50）事例検討ワーク：チームでつくる意思決定プロセス（野呂 牧人、他全員） ・多職種役割を設定したロールプレイ、本人中心の意思決定プロセスを協働で進める体験 ・共有→調整→再構築のプロセスを実践的に学ぶ 8. パネルディスカッション（15:00～15:30） 9. リフレクション及び発表（15:30～16:30）学びの統合とアクションプラン作成（善生まり子、他全員） ・個人リフレクション：今日の気づきを整理し、実践への違和感や気づきを言語化 ・チームリフレクション：多職種の役割再確認、連携プロセスで見た改善点共有 ・アクションプラン作成：自施設の課題を振り返り、明日から取り組める「小さな一歩」を明確にする

個別講座名	専門職連携チームのアントレプレナーシップ概論（対面開催）	
担当教員	○上原栄一郎、押野修司、岡田茂治 他	
開講日時	12月 6日（日）9：00～16：00	
総時間数	研修時間数：6時間 履修証明プログラムにおける時間数：8時間* *1時間＝45分間（実質の受講時間）＋15分間（自己学習）	
講義概要	保健医療福祉の現場では、利用者・患者中心のケアを実現するために、専門職一人ひとりが現場に内在する社会課題を発見し、多職種と協働しながら新たな価値を創造していく力が求められている。本講座では、アントレプレナーシップを「起業に限らない、現場改善や社会課題解決に向けた行動原理」として捉え、その基礎的な考え方と実践プロセスを学ぶ。特に、多職種連携の視点から、専門職がそれぞれの専門性を活かしつつ、チームとして課題を再定義し、小さな実践につなげていく力の醸成を目的とする。講義に加え、保健医療福祉分野における実践事例の紹介や、参加者同士の対話・演習を通して、アントレプレナーシップを「体験的に理解する」機会を提供する。 〔キーワード〕アントレプレナーシップ、多職種連携、社会課題解決、価値創造、現場改善	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 保健医療福祉分野のアントレプレナーシップの意義を理解し、現場実践との関連を説明できる 実践事例を通して、アイデアを形にしていく過程と、多職種協働の意義を理解できる 利用者・患者・地域住民の視点に立ち、現場に潜在する社会課題を発見し、言語化・定義できる アントレプレナーシップの基本的なプロセスを体験し、課題解決に向けたアイデアを創出できる 所属する現場で実践可能な改善・変革に向けたアクションプランを立案できる 	
講義内容及び方法	講義内容（当日変更の可能性あり）	講義方法
	<p>◆ オリエンテーション</p> <p>1. 講義：多職種連携とアントレプレナーシップの基礎理解</p> <p>(1) 理論講義 基本概念（社会課題の発見、制約下での行動、新たな価値創造） 保健医療福祉分野におけるアントレプレナーシップの意義 専門性の違いを活かした協働の価値創造</p> <p>(2) 実践事例紹介 本学におけるアントレプレナーシップ教育・実践プログラムの紹介 保健医療福祉領域の事例（現場改善、サービス開発、地域連携） アイデアが「構想」から「実践」へと展開していくプロセスの理解</p> <p>2. 演習：課題発見からアイデア創出までの体験</p> <p>(1) アイスブレイク／多職種交流 背景の共有と相互理解、専門の違いによる視点の多様性を体感する</p> <p>(2) フィールドワーク／課題発見 利用者・患者・住民の視点に立ち、「気づき」や「違和感」を言語化 課題を「個人の困りごと」ではなく「構造的な問い」として整理する</p> <p>(3) アイデア発想（チーム演習） 多職種チームによる対話を通じたアイデアの具体化 小さく試せる改善・変革の視点</p> <p>(4) ミニ・ピッチ チームごとにアイデアを簡潔に発表し、視点の広がりや改善点を共有</p> <p>3. アクションプラン作成：現場実践への接続</p> <p>(1) 個人アクションプラン立案 自身の立場・所属現場を踏まえ、「明日から取り組める」改善・実践行動を整理する。多職種連携をどのように活かすかを明確化する</p> <p>(2) アクションプラン・ピッチ 立案したアクションプランを共有、実践のハードルや工夫点を可視化</p> <p>◆ 修了式 ◆ 受講アンケート</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講義 演習

「専門職連携を学ぶ講座」に関するお問い合わせ

埼玉県立大学 専門職連携教育研修センター

〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮 820

TEL : 048-973-4114 FAX : 048-973-4807

e-mail : ipe-kenshu@spu.ac.jp

ホームページ : <http://www.spu.ac.jp>